



豪州準備銀行は住宅市場の動向を注視する姿勢示す

- 豪州準備銀行(RBA)は4月6日の理事会で、政策金利と豪3年国債利回りの誘導目標を0.1%で据え置く決定を下す。
- RBAは長期にわたって低金利政策を維持する方針を示す。RBAは豪州国債購入による量的緩和策も継続へ。
- 足元の豪州景気は予想以上に底堅い回復が進行中。もともと、RBAは先行きの物価見通しには慎重な見方を維持。
- 豪主要都市ではコロナ前の高水準を上回る住宅価格の上昇が進行。RBAは住宅市場の動向を注視する姿勢示す。

RBAは低金利政策を長期にわたり維持する方針

豪州準備銀行(RBA)は4月6日の定例理事会で、大方の市場予想通り、政策金利と豪3年国債利回りの誘導目標を0.1%で据え置く決定を下しました(図1)。

RBAの声明文では、先行きの金融政策に関して「インフレ率が持続的にインフレ目標内(2~3%)で推移するまでは政策金利の引き上げは行わない」、「2024年までに利上げの条件(賃金上昇や労働市場の引き締め)が満たされるとは予想していない」と述べられ、引き続き低金利政策を長期にわたって維持する方針が示されました。

RBAによる現行の1,000億豪ドル規模の国債購入プログラムはほぼ完了しており、第二弾の1,000億豪ドル規模のプログラムが来週より開始される見込みです。その後も、RBAは必要に応じて追加の国債購入を実施する用意があるとの方針を示しています。

豪州景気は予想以上に底堅い回復が進行中

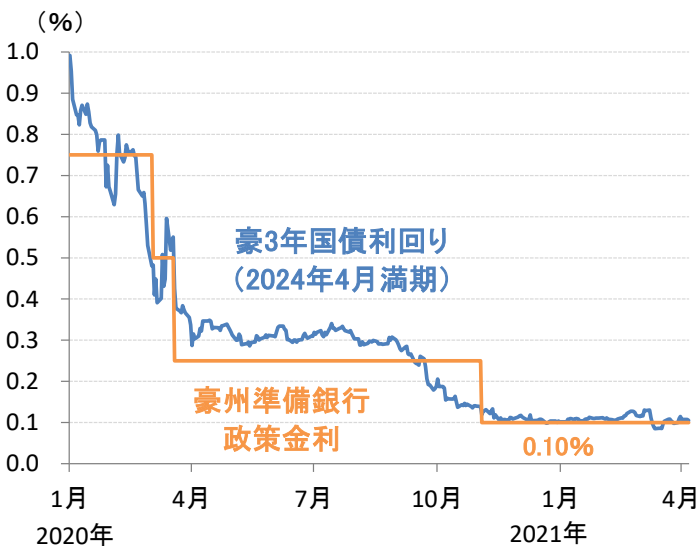
足元の豪州景気に関しては、RBAは「予想以上に底堅い景気回復が進行中である」との判断を示しています。

豪州の2021年2月の失業率は5.8%へ低下し、市場予想(6.3%)を上回る雇用環境の改善が示されました。もともと、賃金上昇を伴った基調的インフレ圧力が高まるには、失業率の一段の低下が必要とみられており、RBAは先行きのインフレ見通しにはなお慎重な見方を維持しています。

RBAは住宅市場の動向を注視する姿勢を示す

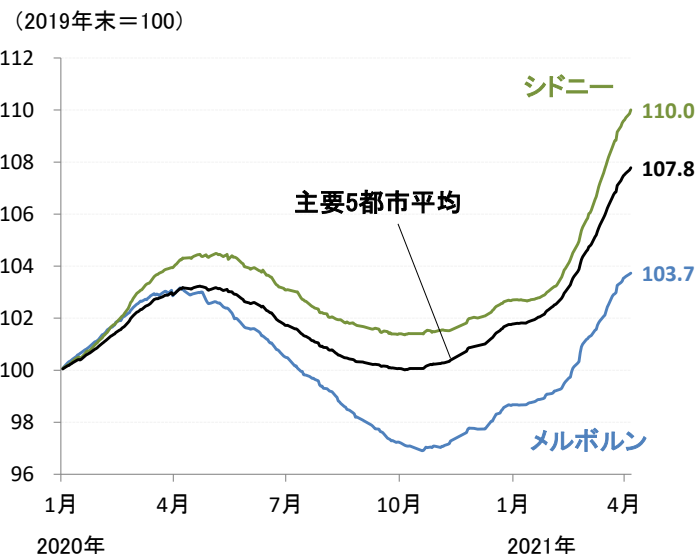
一方、今回の声明文では、豪州の主要都市における住宅価格の上昇について言及がなされました。シドニーやメルボルンなど主要都市の住宅価格は足元でコロナ前の高水準を超えた上昇が顕著となっており、RBAは住宅市場の動向を注視する姿勢を示しました(図2)。

図1: 豪州準備銀行(RBA)の政策金利と国債利回り



(出所)RBA、ブルームバーグ
(期間)2020年1月1日~2021年4月6日

図2: 豪州の主要都市の住宅価格の推移



(出所)コアラジック、ブルームバーグ
(期間)2020年1月2日~2021年4月6日
(注)主要5都市はシドニー、メルボルン、ブリスベン、アデレード、パース。

●当資料は、説明資料としてフランクリン・テンブルトン・ジャパン株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したもので、その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。●フランクリン・テンブルトン・ジャパン株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第417号)はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。